

< 研究報告 >

「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の適用が 小学校入学後に及ぼす効果

三浦 光哉

(宮城教育大学特別支援教育総合研究センター客員研究員、山形大学教職大学院)

要 約

本研究は、小学校入学後において、5歳年長の時期に「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」を適用したA幼稚園出身児が学習面や行動面で不適応が少なくなっていることについて、小学校1年生担任によるアンケート調査から一般幼稚園出身児と比較しながら検討した。手続きでは、A幼稚園5歳児3クラス計72人(本研究の対象児46人)に対して、3ヶ月間にわたって、「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」40題材を適用した。そして、この効果を検証するために、小学校入学後の7月に、1年生担任8人に対して、8項目(国語の読み、国語の書き、算数の読み書き、算数の計算、視写、対人関係、聞く、話す)について、4段階評価(大いにある、多少ある、あまりない、全くない)のアンケート調査を実施した。また、比較するために、保育活動プログラムを受けていない一般幼稚園出身児178人にも同様のアンケート調査を実施した。その結果、A幼稚園出身児は、8項目全てにおいて一般幼稚園出身児よりも不適応出現率が少なく、また、平均不適応出現率で約10%少なかった。このことは、「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の適用が、小学校入学後における国語や算数の読み書き計算、聞くことの授業集中、話すことのコミュニケーション、友達とのコミュニケーションなどの能力や態度において効果を示したのではないかと推測された。特に、行動面や情緒面、対人関係面で効果が期待できるものとなった。

I. 問題と目的

小1プロブレム(教室から出て行く、授業中に立ち歩く、教師の話を中心して聞けない、友達と上手関われない、国語や算数の学習が分からない、登校渋りが見られる等)は、最近の重要な問題として指摘されている(東京都;2010,三浦;2013・2015,文部科学省;2014など)。その要因は、保育所・幼稚園・認定こども園(以下、保育所・幼稚園等)から小学校への就学における情報提供の欠如、保育所・幼稚園等の保育と小学校の教育における指導内容・方法の違い、教員の発達障害児等への不適切な対応、適正就学に対する保護者不同意による児童の不適応、など様々指摘されている(汐見;2013,三浦・井上,2013など)。

このような小1プロブレムの対応策としては、保育所・幼稚園や小学校において、保育活動、教科学習の在り方、カリキュラム編成など多方面で見直しが行われ、また、関係機関（教育・福祉・医療・保健等）を含めた保幼小の連携強化も取り組まれている。これまで筆者は、保育所・幼稚園等の5歳年長児に対して、小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム（以下、保育活動プログラムと称す）を実施することにより、小学校入学前の3か月間で平仮名や数字の読み、自分の名前の書きに向上が見られ（三浦，2015）、小学校入学後に不適応の程度（段階）が少なくなっているといった効果を報告してきた（三浦，2016）。しかし、これらの報告は、保育活動プログラムを適用した対象児が少人数であったり、適応状況の内容が小1プロブレムと言われている学習面や行動面について詳細に示したものではなかった。

そこで、本研究では、保育活動プログラムの対象児数を増やして一般化を図り、学習面や行動面についての適応状況の有無について小学校1年生担任に調査を依頼して詳細に把握することを考えた。このことを踏まえながら、5歳年長児に保育活動プログラムを適用した児童が小学校入学後に学習面や行動面で適応することができ、それが年間と通して持続するかについて、保育活動プログラムを適用していない一般児童と比較しながら検討することとした。

II. 方法

1. 「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の実施対象

(1) 対象児

保育活動プログラムを適用した対象児は、Y県の私立A幼稚園5歳児3クラス計72人（本研究の対象児は46人）である。A幼稚園は、市内の中でも障害の診断・判断が多く、就学時健診で7人が通常学級在籍での要観察となっていた。

(2) 実施期間

保育活動プログラムの適用期間は、20××年1月～3月（3か月間）である。保育活動プログラムの適用時間は、週2回程度、10時～12時（120分）に設定した。

2. 「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の内容

保育活動プログラムは、表1に示した三浦（2013）が作成した『小1プロブレムを防ぐ保育活動（実践編）』にある計40題材とした。1つの題材は小学校の授業時間に合わせて40分とし、120分の中で3つの題材を実施した。この題材には、小学校の教科学習や集団活動で必要としている能力が盛り込まれている。具体的な保育活動プログラムの事例として、表2に「No.11 丸、三角、四角の形はどれ？」を示した。

3. 「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の効果検証

(1) 検証時期

検証時期は、小学校入学後の7月（1学期終了時）とした。

(2) アンケート調査の検証内容

適応状況についてのアンケート調査は、A幼稚園5歳年長児が最も多く就学するX小学校4

クラス 121 人（A 幼稚園出身 30 人、一般幼稚園出身 91 人）と Y 小学校 4 クラス 103 人（A 幼稚園出身 16 人、一般幼稚園出身 87 人）、計 8 クラス 224 人（A 幼稚園出身 46 人、一般幼稚園出身 178 人）とし、2 つの小学校の 1 年生担任（8 クラス 8 人）に対して実施した。

アンケート調査の内容は、「国語の読み（平仮名や片仮名）」、「国語の書き（平仮名や片仮名）」、「算数の読み書き」「算数の計算」、「視写（板書や観察）」、「対人関係（トラブル）」、「聞く（集中力・離席）」、「話す（コミュニケーション）」の 8 項目を設定し、それぞれの項目を「0 点：全くない」「1 点：あまりない」「2 点：多少ある」「3 点：大いにある」の 4 段階評価で点数化した。アンケート調査内容の一部を表 3 に示した。

（3）分析方法

8 クラス 8 人の 1 年生担任は、アンケート調査内容の 8 項目について、クラス全員の児童を 4 段階評価した。そして、アンケート用紙回収後（回収率 100%）に、保育活動プログラムを適用した A 幼稚園出身児と保育活動プログラムを適用していない一般幼稚園出身児とを比較した。なお、担任には、アンケート調査の目的を「小 1 プロBLEM の実態調査」というだけの説明をし、出身園児の評価に影響が出ないようにした。

4. 倫理的配慮

保育活動プログラムの実施については、A 幼稚園と保護者の同意を得た。また、アンケート調査の実施とその活用については、X 小学校、Y 小学校、市教育委員会の同意を得た。

Ⅲ. 結果

図 1 には、小学校入学後の 7 月時点において、A 幼稚園出身児と一般幼稚園出身児について、8 項目（国語の読み、国語の書き、算数の読み書き、算数の計算、視写、対人関係、聞く、話す）の適応状況を示した。8 項目の数値は、全 8 クラスにおける 4 段階（大いにある、多少ある、あまりない、全くない）評価の合計人数を百分率にしたものである。その結果、不適応状況を示す「大いにある」と「多少ある」を合わせた割合（不適応出現率）において、A 幼稚園出身児は、国語の読み 18%、国語の書き 31%、算数の読み書き 16%、算数の計算 24%、視写 24%、対人関係 13%、聞く 24%、話す 20%であった。一方、一般幼稚園出身児は、国語の読み 25%、国語の書き 36%、算数の読み書き 23%、算数の計算 24%、視写 35%、対人関係 35%、聞く 33%、話す 25%であった。このことから、8 項目全てにおいて、A 幼稚園出身児の方が一般幼稚園出身児よりも出現率が少なかったことが明らかとなった（算数の計算は同率であるが、詳しくは A 幼稚園出身児 23.9%、一般幼稚園出身児 24.3%である）。不適応状況の出現率は、A 幼稚園出身児が 13～31%、一般幼稚園出身児が全体の 23～35%であった。平均出現率は、A 幼稚園出身児 21%、一般幼稚園出身児 30%で、A 幼稚園出身児が平均出現率で約 10%少なかった。

表1 「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の題材一覧（三浦, 2013）

| 題 材 名 | 保育所・幼稚園の領域 | 小学校の教科 | 引き出す能力 |
|-----------------------|-------------|--------|------------------------|
| ①自己紹介をしよう | 人間関係（言葉・表現） | 国語（生活） | 話す、聞く、人との関わり、表現力、 |
| ②宅配便ごっこをしよう | 人間関係（言葉・表現） | 国語（生活） | 話す、聞く、役割、平仮名理解、書く |
| ③どんなお話だったかな？ | 言葉（表現） | 国語（生活） | 集中力、想像力、記憶力、話す |
| ④言葉を聞いて伝えよう | 言葉（表現） | 国語（生活） | 記憶力、集中力、伝達能力、話す |
| ⑤反対の言葉を考えよう | 言葉（表現） | 国語（生活） | 対語の理解、表現力、想像力 |
| ⑥鉛筆で書いてみよう | 環境（言葉） | 国語（生活） | 書く、筆圧、鉛筆の持ち方、運筆、 |
| ⑦平仮名と自分の名前 | 環境（言葉） | 国語（算数） | 平仮名の理解、左右の区別、数字理解 |
| ⑧いろいろな言葉を作ろう | 環境（言葉） | 国語（生活） | 平仮名の理解、物の知識、協力 |
| ⑨小学校カルタをしよう | 環境（言葉・人間関係） | 国語（生活） | 平仮名理解、集中力、判断力、数字理解 |
| ⑩数字を数えよう | 環境（言葉） | 算数（生活） | 数唱、数字理解、左右の区別 |
| ⑪丸、三角、四角はどれ？ | 環境（言葉・表現） | 算数（生活） | 形の区別、聞く、見る、想像力 |
| ⑫大きい、小さいのはどっち？ | 環境（言葉・表現） | 算数（生活） | 大きさの比較、聞く、見る、想像力 |
| ⑬高い、低いのはどっち？ | 環境（言葉・表現） | 算数（生活） | 高さの比較、聞く、見る、想像力 |
| ⑭長い、短いのはどっち？ | 環境（言葉・表現） | 算数（生活） | 長さの比較、聞く、見る、想像力 |
| ⑮速い、遅いのはどっち？ | 環境（言葉・表現） | 算数（生活） | 速さの比較、聞く、見る、想像力 |
| ⑯重い、軽いのはどっち？ | 環境（言葉・表現） | 算数（生活） | 重さの比較、聞く、見る、想像力 |
| ⑰観察して仲間分けしよう | 環境（言葉・表現） | 生活（国語） | 観察力、想像力、知識、動植物の区別 |
| ⑱3つのヒントで当てよう | 環境（言葉・表現） | 生活（国語） | 抑制力、想像力、表現力、物の知識 |
| ⑲朝昼夜の区別をしよう | 環境（言葉・表現） | 生活（算数） | 自然現象、時間、時計、物の知識 |
| ⑳箸で上手につまめるかな | 健康（人間関係） | 給食（算数） | 集中力、箸の持ち方、数字、協応動作 |
| ㉑手遊びをしよう | 人間関係（表現） | 音楽（生活） | 関わり、勝敗の理解、歌唱 |
| ㉒音階を色で覚えよう | 表現（言葉） | 音楽（図工） | 音階の理解、色の区別、音感、歌唱 |
| ㉓楽器の名前を覚えよう | 表現（言葉） | 音楽（生活） | 楽器の知識、記憶力、歌唱 |
| ㉔大きい音、小さい音 | 表現（言葉） | 音楽（生活） | 大小の区別、リズム感、歌唱、想像力 |
| ㉕どんなパンがあったかな | 表現（言葉） | 音楽（生活） | 記憶力、リズム感、歌唱 |
| ㉖丸から何ができるかな？ | 表現（言葉・環境） | 算数（図工） | 想像力、数唱、数概念、色の区別、歌唱 |
| ㉗友達の顔やいろいろな絵を見て描こう | 表現（人間関係） | 図工（生活） | 描写、空間認知、見る |
| ㉘5日間同じ絵を描こう | 表現（言葉） | 図工（生活） | 描写、空間認知、見る、比較 |
| ㉙順番を守って皆で一つの絵を描こう | 表現（人間関係・環境） | 図工（生活） | ルール、見る、聞く、集中力、抑制力、着席行動 |
| ㉚人や色を制限しながら皆で一つの絵を描こう | 表現（人間関係・環境） | 図工（生活） | ルールの理解、見る、集中力、抑制力 |
| ㉛どんな形や物ができるかな | 表現（人間関係・環境） | 図工（算数） | 空間配置、手と目の協応動作、模倣、 |
| ㉜形をまねして書こう | 表現（環境） | 図工（算数） | 模倣、空間認知、協応動作、書く |
| ㉝何を描いたのかな？ | 表現（言葉・環境） | 図工（生活） | 色区別、空間配置、左右の区別、想像力 |
| ㉞ハサミで切ってみよう | 表現（環境） | 図工（生活） | ハサミ、協応動作、微細運動、集中力 |
| ㉟作って遊ぼう | 表現（人間関係・環境） | 図工（生活） | 速さ比較、聞く、見る、想像力、関わり |
| ㊱いろいろな運動をしよう | 健康（人間関係・環境） | 体育（生活） | 粗大運動、ルール、器械運動、平衡感覚 |
| ㊲マット当て名人はだれ？ | 健康（人間関係・環境） | 体育（生活） | 粗大運動、集中力、ルールの理解、承認 |
| ㊳昔からの遊びをしよう | 健康（人間関係・環境） | 体育（生活） | 微細運動、粗大運動、空間認知、関わり |
| ㊴ルールを守って遊ぼう | 健康（言葉・人間関係） | 体育（音楽） | ルールの理解、友だちへの応援、賞賛 |
| ㊵自分のことを知って遊ぼう | 健康（言葉・人間関係） | 体育（音楽） | ルールの理解、自己理解、譲る、機敏性 |

表2 具体的な保育活動プログラムの事例「丸、三角、四角の形はどれ？」

| N0.11 「丸、三角、四角の形はどれ？」 | | |
|--|---|--|
| <引き出す力> | 丸・三角・四角の区別、聞く、見る、想像力 | |
| <関連する能力> | 保育所・幼稚園等（環境、言葉、表現） 小学校（算数、生活） | |
| <活動編成と時間> | 保育形態（一斉） 時間（約20分～40分） | |
| | ○は教師の動き ◆は特に配慮を要する園児 | |
| 保 育 内 容 | 教師の動きと働きかけ | 準備物等 |
| 1. 着席する 2. 説明を聞く 3. 丸を理解する 4. 三角を理解する 5. 四角を理解する 6. その他の形を理解する 7. 絵カード見て形を区別する。 8. 言葉から想像して形を区別する | ○園児（10～30人）をイスに座らせる。 ◆発達障害傾向の園児を隣り合わせないようにする。 ○園児の前に立ち、丸、三角、四角、バツの動作を見せながら全体に声がけをする。園児にも動作をさせる。 「これから、いろいろな写真(絵)が出てきます。」 「その絵の形が、丸い時には、両手で○を作ります。」 「その絵が三角の時には、胸の前で三角を作ります。」 「その絵が四角の時には、両手の肘を直角に曲げて、上にあげながら四角を作ります。」 「その絵の形が丸、三角、四角の形でない時には、大きく×を作ります。」 ◆理解できない園児には、再度、動作を覚えさせる。 ○園児に絵カードを見せながら名前を言い、丸、三角、四角バツを作らせる。 「それでは、練習してみましょう。」 「サッカーボール」「これは、丸です。」 「おにぎり」「これは、三角です。」 「テレビ」「これは、四角です。」 「ペットボトル」「これは、バツです。」 「みなさん、できましたか。」 「それでは、本番です。始めますよ。」 (絵カードを見せながら) 「ドーナツ」→「屋根」→「携帯電話」→「歯ブラシ」→ 「リモコン」→「タイヤ」→「クレヨン」→「下敷き」→ 「止まれの標識」→「野球のボール」→「豆腐」→…… ◆形の動作を作れない園児には、絵カードで形の確認をしてから模倣をさせる。 「今度は、難しくなります。絵カードを見ないで、言葉だけを聞いて、丸、三角、四角、バツを作って下さい。」 (言葉カードを見せながら) 「シャボン玉」→「ノート」→「ハンカチ」→「山」→ 「パソコン」→「帽子」→「時計」→「飛行機」→ 「トライアングル」→「ゴルフボール」→「電車」→…… | イス 形のポーズ 絵カード 絵カード 【CD-ROM】 言葉カード |

表3 小学校1年生の適応状況についてのアンケート調査内容（一部のみ掲載）

小学校1年生の学習等の困難についての調査

(●●市立●●小学校 1年1組)

【国語】

国語の学習で、困難性の状況（4段階）について該当する内容に○をつけてください。

0：全くない 1：困り感があまりない 2：多少の困り感がある 3：大いに困り感がある

| 児童の名前 | 平仮名やカタカナの「読み」 | | | | 平仮名やカタカナの「書き」 | | | |
|-------|---------------|---|---|---|---------------|---|---|---|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 1 | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | |

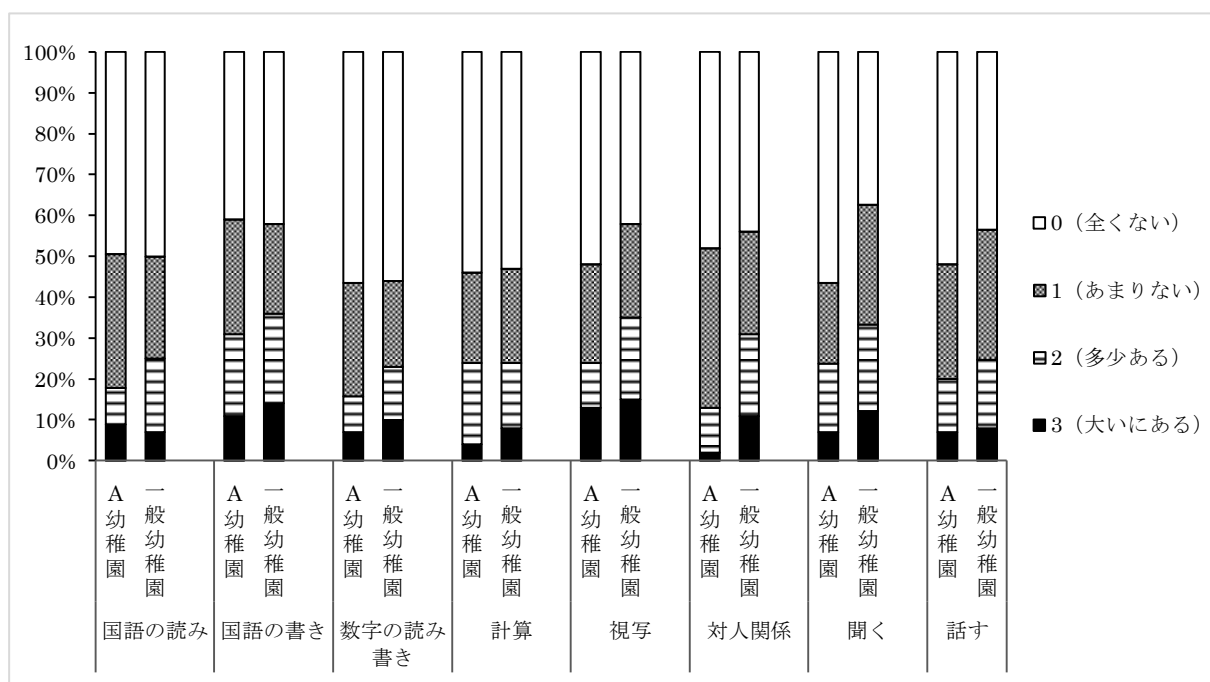


図1 小学1年入学後（7月）における適応状況調査

また、8項目において両幼稚園を比較して見てみると、差異が大きかったのは、対人関係 13%、視写 11%、聞く 9%であった。一方、差異が小さかったのは、算数の計算 0%、国語の書き 4%、話す 5%であった。

IV. 考察

本研究は、小学校入学後において、5歳年長の時期に「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」を適用したA幼稚園出身児が学習面や行動面で不適応が少なくなっていることについて、小学校1年生担任によるアンケート調査から一般幼稚園出身児と比較しながら検討することであった。

小学校1年生担任に実施したアンケート調査の内容は、「国語の読み(平仮名や片仮名)」、「国語の書き(平仮名や片仮名)」、「算数の読み書き」「算数の計算」、「視写(板書や観察)」、「対人関係(トラブル)」、「聞く(集中力・離席)」、「話す(コミュニケーション)」の8項目である。いずれも学習面や行動面で小1プロブレムとして喫緊の課題となっているものを選定した。そして、1年生担任には、クラス全児童に対して8項目について困り感の程度を4段階評価(大いにある、多少ある、あまりない、全くない)していただいた。このうち、「大いにある」と「多少ある」を合わせて不適応状況があると規定した。

A幼稚園出身児は、8項目全てにおいて一般幼稚園出身児よりも出現率が少なく、また、平均出現率で約10%少なかったことが明らかとなった。このことは、「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の適用が、小学校入学後における国語や算数の読み書き計算、聞くことの授業集中、話すことのコミュニケーション、友達とのコミュニケーションなどの能力や態度において効果を示したのではないかと推測された。これまで、「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の適用による効果は、5歳年長終了時で報告されていたが(三浦, 2016)、その後の小学校入学後までも効果が持続されることが示された。そして、現在、喫緊の課題となっている小1プロブレムを予防するためには、小学校入学する以前の5歳年長の時期において、小学校の学習や生活を見据えて学習、行動、生活に関連したり接続する何らかの保育活動を明確に実施することが必要不可欠であることが示唆された。その意味では、本研究で活用した「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」は、1つの有効的な手法であろう。

さらに、8項目において詳細に比較分析したところ、不適応状況の差異が大きいのは、「対人関係」、「視写」、「聞く」であった。これは、友達とのトラブル、授業における板書や観察、授業の集中度のことである。一方、不適応状況の差異が小さいのは、「算数の計算」、「国語の書き」、「話す」であった。これらのことから、教科学習面ではそれほど差異が見られないものの、行動面での差異が大きいことを示すものであると考えられる。つまり、「小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラム」の適用は、教科学習の基礎的学習能力よりも、対人関係能力や情緒の安定、空間認知能力でより一層効果が発揮されていることを伺わせ

るものであろう。これまでは、教科学習面に効果があり、学習障害（LD）への予防につながるものが報告されていたが（三浦，2016）、今回の調査結果により、新たに行動面や情緒面、対人関係面でも効果が期待できることが分かり、注意欠陥多動性障害（ADHD）や自閉スペクトラム障害（ASD）への予防にもつながることにもなるのではないかと推察された。

V. 今後の課題

本研究では、「小1プロブレムを防ぐ保育活動」の効果について、小学校1年生入学後における評価で詳しく調査しようと考えた。その結果、特に、行動面や情緒面、対人関係面で効果が期待できるものとなった。今後は、このような効果が1年生終了するまで、さらにその後も持続することができるのかを経年で追ってみたい。

付記

本研究は、平成28～30年度科学研究費補助事業・学術研究助成基金助成金（基盤研究(c)一般、三浦光哉、課題番号16K04811）を受けたものである。

文献

汐見稔幸(2013)：本当は怖い小学一年生．ポプラ新書．

東京都教育委員会(2010)：小1問題・中1ギャップの実態調査について．

三浦光哉編(2013)：小1プロブレムを防ぐ保育活動（実践編）．クリエイツかもがわ．

三浦光哉・井上孝之(2013)：小1プロブレムを防ぐ保育活動（理論編）．クリエイツかもがわ．

三浦光哉(2015)：小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラムの開発・適用と効果．宮城教育大学特別支援教育総合研究センター研究紀要, 第10号, 23-32, 宮城教育大学特別支援教育総合研究センター．

三浦光哉(2016)：5歳児アプローチカリキュラムと保育活動プログラムの効果．宮城教育大学特別支援教育総合研究センター研究紀要, 第11号, 13-22, 宮城教育大学特別支援教育総合研究センター．

文部科学省(2014)：『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』